

代表質問

民進・連合・社民

〔総括質問者〕

石原よしのり

西牟田 勲

かつまた竜大

佐藤 義一

医療保険行政

問 高齢になると、様々な慢性疾患にかかり、複数の医療機関を受診するケースが多くなる。このような場合、薬が重複して処方される、あるいは、薬の飲み残し等で、自宅に処方薬がどんどんたまっていくことがあり、これを残薬という。そこで、医療費を削減するため、薬剤師が中心となって残薬を減らそうとする残薬調整という取り組みがあるが、これに対する市の認識と対応について問う。

答 市としては、薬剤師が関与した残薬の削減効果に係る中央社会保険医療協議会の平成27年報告にも照らし、残薬を減らす対策を講じることは医療費の適正化につながるものと認識している。国の調査では、残薬の発生原因は飲み忘れが7割近くを占めているため、国は、薬の管理を薬局中心にするような対策を講じており、本市でも市公式Webサイト等で「かかりつけ薬局」を持つことの意義について周知を図っている。今後も薬剤師会と連携

外環道路の植樹帯

を密に図りながら、残薬への対応を協議していきたい。

問 クロマツは、本市が指定した「市の木」であり、昔から多くの市民が、市川市といえはクロマツとイメージしている。クロマツのある景観を守り、豊かに残していくことは、市の魅力を維持向上させることになると考える。先般、現在建設中の外環道路にクロマツ並木を造って欲しい旨を要望する市民運動が行われたが、これに対する市の認識及び対応、並びに、市に提出された、市から国に対しクロマツ並木の実現を要請して欲しい旨の要望に係る市の対応について問う。

答 今般の市民運動に関して、クロマツ並木を望むという意識を持つ市民がいることを市も認識したと共に、

創生市川第3

〔総括質問者〕

荒木 詩郎

松永 鉄兵

稲葉 健二

行徳支所

問 行徳地域は江戸川を隔てた旧市川市域とは異なる特色を持っており、行徳支所にはこれを踏まえた行政サービスを提供してほしいと考える。大久保市政では、

答 行徳支所は市域南部の市民にとって欠くことのできない身近な存在である。行徳支所と本庁との関係では、二重行政となっていた部分の一部見直しを行ってきた。支所の権限について

も、住民サービスを行う上での機能を後退させたことはなく、道路補修や公園の維持管理等、迅速性を求められるものについても引き続き対応していく。

都市計画道路3・4・18号

問 都市計画道路3・4・18号が全線開通した。大変嬉しいことではあるが、場合によっては、利用状況等を見極めた上で、安全性等に配慮しつつ必要な措置を講ずることもありうると考える。全線開通後の現時点で、市は道路の利用状況をどのように評価しているか。

答 本道路の全線開通の効果として、八幡中央通りや木下街道等市内道路の渋滞の緩和により南北の移動時間の大幅な短縮や利便性の向上が図られ、消防・救急活動にも大きく寄与していることを認識している。開通による評価は、交通量調査や騒音、振動及び大気質に関する環境モニタリング調査29年度後半に、調査結果全



全線開通した都市計画道路3・4・18号

清風会

竹内 清海

〔総括質問者〕

松井 努

不登校児童・生徒への支援

問 児童生徒の不登校については、子どもにとって信頼して相談できる大人が存在していることが大切である。本市における不登校児童生徒の現状及び市の対応

答 や考え方について問う。本市における過去3年間の不登校の人数は、小学校で増加傾向、中学校で減少傾向にある。不登校に至る要因、背景は多様で複雑であり、不登校を問題行動とは捉えていない。本市では適応指導教室「ふれんどルーム市川」で学校復帰を

子育て支援

問 本市の子育て支援は出生前から切れ目のない様々な事業を行っている。市内11カ所に設置されている地

域子育て支援センターは、これらから出産するカップルが相談できる場所であるが、その素晴らしさが伝わっていないのが現状である。センターの更なる活用や周知について、市の考えを問う。

答 地域子育て支援センターでは出産や育児に関する情報交換や妊婦同士の交流の場としての活動も行っている。センターについては公共施設でのチラシの配布やWEB等で周知に努めているが、更に様々な部署や民間団体とも連携し、一層の周知啓発に努めていく。



クロマツの街並み(菅野2丁目)



市内に11カ所ある地域子育て支援センター(写真はCMSいちかわキッズ子育て支援センター)